

No.233

2019年
11月号

さくらの

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

第72回 読書週間

「おかえり、

葉しおりの場所で待ってるよ」

10月27日から11月9日は読書週間です。今年の標語は「おかえり、葉の場所で待ってるよ」です。

お気に入りの本を見つけて、ゆっくりと読書の秋を楽しんでみませんか。

図書館では「読書週間」と「読書の秋」にちなんで11月は企画展示のほかに「読書クイズ」を行います。

ぜひお越しください。



★集まれ!!小中学生

「図書館読書クイズ」

11月28日(木)まで

今年も恒例行事の「図書館読書クイズ」を開催します。対象は小中学生。図書館の本で調べて、答えてください。全問正解者には記念品をプレゼント！(正解者多数の場合は抽選となります。)

詳しくは図書館窓口で!!



展示のご案内

★ メイン展示

「11月 いい〇〇の日」

展示期間 11月28日(木)まで

メイン展示は「11月 いい〇〇の日」と題して、

- ・11月16日 いい色の日
- ・11月22日 いい夫婦の日
- ・11月29日 いい肉の日

という3つのコーナーを設けました。



●メイン展示図書(抜粋)

- 「クレヨンからのおねがい!」
- 「京の色百科」
- 「いのししの夫婦」
- 「妻のトリセツ」
- 「悪魔のレシピ」
- 「肉食で糖質オフ大成功!」

《高校生の職場体験学習》

宿毛高校の生徒が職場体験学習に来てくれました。本の整理や貸出・返却作業などを2日間にわたって真面目に取り組んでくれました。



読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

「迷いながら生きていく」

五木寛之・著
PHP研究所

平成から令和へと新しい時代の幕が明けました。

これから時代の流れも変わり、社会情勢も変化していく中で迷いや戸惑いもたくさんあると思います。

新しい時代となつてなお強く生きていくためのヒントとともに、幸せであるために大切なことが書かれた一冊となっています。

(岡村)

(一般)

「親が知らない子どものスマホ」

鈴木明子・著
日経BP

大人だけでなく、子どももスマホを持つことが、当たり前の時代になってきました。

親たちも、子どもたちがスマホをどのように使用しているかは知らないでしょう。

この本は、今どきの中高生のスマホの使い方の実態を知り、理解を深めて、安心・安全を手に入れる第一歩となります。

子どもを持つすべての親たちに、ぜひ読んでほしい一冊です。

(尾崎)

(児童)

「桃太郎は盗人なのか？」 —「桃太郎」から考える鬼の正体—

倉持よつば・著
新日本出版社

実際に調べ学習として取り組んだ作品を単行本化。

いつも正義のヒーローとして描かれる桃太郎。しかし、「桃太郎は盗人である」と書かれた本を見つけた小学校5年生(当時)の倉持よつばさんは疑問に思い調べ始めます。出版されているたくさんの「桃太郎」を読み比べながら、鬼退治に行った理由をまとめ、「鬼」の正体の考察に発展。

調べるきっかけから手順・成果がわかりやすくまとめられています。調べ学習の参考にぜひ読んでほしい一冊です。

(山口)

(児童)

「とんでいったふうせんは」

ジェシー・オリベロス 文
ダナ・ウルエコッテ 絵
大日本図書

みんなが持っている「思い出」の風船。孫はおじいちゃんが持っている色とりどりの風船の思い出話を一つずつ聞きます。その中に二人が持っている共通の色の風船があり、それは聞かなくてもわかる大切な思い出。しかし、ある時からおじいちゃんの風船が次々と手から離れていき、残りわずかになっていくと…。

それは特別ではなく、すべての人に起こり得る。積み重ねた思い出とともに、たくさんの感情とも向き合い生きていく。そんな人生の一場面を描いた、温かくも希望にあふれた一冊です。

(樫田)

雅楽の夕べ

山下量子

先日、宿毛市連合婦人会主催の「雅楽の夕べ」というイベントに行ってきた。仕事のためギリギリに開催場所の林邸に到着した私の前には、たくさんの方が来ていた。気軽に雅楽を楽しんでもらおう、ということがコンセプトだというその会では、希望者にはお茶やお茶菓子のふるまいもあるというなんと素敵な会である。

畳に座り、外を眺めるとガラス越しに庭の竹灯籠が温かい光をぼんやりと放っている。そして前を向くと皆の視線の先には、今風の若いイケメンの男の子が2人。そう、彼らが雅楽の演奏者、「古典演奏団体 風雅の会」の方々である。

雅楽の曲の中で最も有名な曲と言われる越天楽（えてんらく）や五常楽（ごしょうらく）、そして皆になじみのある宿毛音頭や現代曲のハナミズキなど、雅楽特有の楽器で彼らが奏でている。

雅楽というとお正月などに流れるような日本古来の音楽、テレビでいえばNHKチャンネルで放送される類いというようなイメージだけでいた私は、楽曲の合間で彼らが説明する雅楽というものにすこぶる驚いたのである。

まず驚いたのは雅楽の歴史の古さである。そのルーツは、5世紀頃。古代アジア大陸諸国の音楽と舞が仏教文化の渡来と前後して朝鮮半島から日本に伝わってきたものが融合し、ほぼ10世紀（平安時代中期）に芸術として完成したという。1,000年以上の歴史があるのだ。また、今日、このように雅楽が伝承されてきたのは、皇室の保護下であったのは周知のとおりである。昭和30年には、宮内庁楽部の楽師が演奏する雅楽は、「国の重要無形文化財」に指定され、楽部楽師は「重要無形文化財保持者」に認定されているという。2009年にはユネスコ無形文化遺産に登録されている。

この雅楽で一番長い楽曲はなんと4時間以上もあるらしく、それは演奏者も相当な根気があるものだろうと同情にも近い尊敬を感じた。

今回、非常におもしろいなと思ったのは、雅楽が由来と言われる言葉についてである。よくいう「塩梅（あんばい）」。これは、物事の具合や様子、また、程よい加減の時に用いられるが、もとは、雅楽で箏（ひちりき）という管楽器の吹き量や唇の位置を加減すること

で、音程に幅をあたえる奏法を意味するのだという。ちなみに雅楽では「えんばい」と読むという。

その他「打ち合せ」や「打ち止め」、「音頭」や「楽屋」、「序の口」、「千秋楽」などという言葉も雅楽からなのだという。この多くは、私は歌舞伎から来ていると思っていたが、歌舞伎が生まれるのは、400年前であり、雅楽の方がずっと古いわけであるから納得である。

その中でも私の気に入った言葉が「野暮（やぼ）」である。ご存じのとおり、粋でないことなどの意味を持つが、この言葉は、「笙（しょう）」という雅楽器が由来という。「笙」は十七本の竹で組まれた楽器であり、それぞれ音が出るのだけれど、2つだけ音の出ない竹があるという。これら17本すべてに呼び名があるのだが、音の出ないその部分を「也（や）」と「毛（もう）」と発音するのだという。それが少しずつなまり、「やぼ」になり、風流でないときなどに使われるようになったのだという。その話自体が、粋に思えるのは私だけだろうか。

この笙は、温めないと言えないということ、温めながら演奏していることにも驚いた。また龍笛（りゅうてき）という横笛は、「天と地を行き交う龍の鳴き声と言われている」と聞いたときには、なんともその説明自体が詩的で美しいと思った。日本に引き継がれた美しい古来の文化である。

古来の日本と言えば、天皇陛下の即位を国内外に知らしめる儀式「即位の礼」が10月22日におごそかに執り行われた。

その際の天皇陛下のお姿は、重要な儀式で天皇のみが着用できる、黄色がかかった茶色の装束「黄櫨染御袍（こうろぜんのごほう）」に身を包んでおり、皇后雅子さまは十二単姿であった。

伝統装束に身を包むその姿は、雅楽の完成した平安時代を思い起こさせ、それは絵巻のように美しかった、という風評のとおり、その一面を切り取ってまるでタイムスリップしたかのような様相であった。

そして令和の世となったこの時代。

日本国民であるということに誇りを持ちつつも、世界の平和をここでもまた一人、微力ながら願う。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- | | | |
|---|-----------------------------|-------|
| 0 | 「人生おたすけ処方本」 | 三宅香帆 |
| 1 | 「妻のトリセツ」 | 黒川伊保子 |
| 2 | 「江戸の終活」 | 夏目琢史 |
| 3 | 「親が知らない子どものスマホ」 | 鈴木朋子 |
| 4 | 「“意識高い系”がハマる『ニセ医学』が危ない！」 | 桑満おさむ |
| 5 | 「幸せな習慣」 | 内田彩仍 |
| 6 | 「最強のビジネス文書ニュースリリースの書き方・使い方」 | 井上岳久 |
| 7 | 「いちばんわかりやすいテーピング」 | 花岡美智子 |
| 8 | 「人生を変える最強の英語習慣」 | 三浦将 |
| 9 | 「ヤットコスットコ女旅」 | 室井滋 |
| 9 | 「97歳の悩み相談」 | 瀬戸内寂聴 |
| 9 | 「悪寒」 | 伊岡瞬 |
| 9 | 「雨に消えた向日葵」 | 吉川英梨 |
| 9 | 「夏服を着た恋人たち」 | 小路幸也 |
| 9 | 「どうしても生きてる」 | 朝井リョウ |
| 9 | 「最果ての決闘者」 | 逢坂剛 |
| 9 | 「明日の僕に風が吹く」 | 乾ルカ |
| 9 | 「人間」 | 又吉直樹 |
| 9 | 「祝祭と予感」 | 恩田陸 |
| 9 | 「ライオンのおやつ」 | 小川糸 |
| 9 | 「背中の蜘蛛」 | 誉田哲也 |
| 9 | 「潮待ちの宿」 | 伊東潤 |
| 9 | 「彼女たちの犯罪」 | 横関大 |
| 9 | 「鉄の楽園」 | 楡周平 |

※左側の数字は図書の分類を表しています。
 0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
 5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- | | |
|------------------------|--------|
| 「おばあちゃんの小さかったとき」 | おちとよこ |
| 「イソップ童話」 | イソップ |
| 「こびとの台所」 | 上田のりこ |
| 「ラストで君は『まさか!』と言う 冬の物語」 | PHP研究所 |
| 「夢の森のティーパーティー」 | 富安陽子 |
| 「今、空に翼広げて」 | 山本悦子 |
| 「古墳のなぞがわかる本」 | 河野正訓 |
| 「桃太郎は盗人なのか?」 | 倉持よつば |
| 「もうひとつの曲がり角」 | 岩瀬成子 |
| 「しあわせなハリネズミ」 | 藤野恵美 |
| 「魔法のいじわるラムネ」 | 草野あきこ |
| 「君たちは夢をどうかなえるか」 | 松本零士 |

絵本



- | | |
|------------------|------------|
| 「うさぎのまじっく」 | せなけいこ |
| 「ゆめみるどうぶつたち」 | イザベル・シムレール |
| 「おもちさんがね…」 | とよたかずひこ |
| 「ど・ど・ど・どドラえもん」 | 藤子・F・不二雄 |
| 「かがみとチョコリ」 | 角野栄子 |
| 「くいしんぼうのサンタクロース」 | 中川ひろたか |
| 「ねことねこ」 | 町田尚子 |
| 「図書館のふしぎな時間」 | 福本友美子 |
| 「おやさいしろくま」 | 柴田ケイコ |
| 「おもいおもい」 | 木坂涼 |

★このほかにもたくさんの図書が入っております。
 図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、
 そちらもぜひご覧ください。

11月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日 10:00～18:00 は休館日
 ホームページ <http://www.city.sukumo.kochi.jp/sbc/library/index.html>
 メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp